

# 令和6年度相模原市図書館事業評価の概要

## 1 評価の目的

図書館法(昭和25年法律第118号)及び「図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年12月19日文科科学省告示第172号)」に基づき、令和6年度分の図書館の運営状況に関する評価を行い運営の改善を図るとともに、運営の状況に関する情報を積極的に提供することを目的とする。

## 2 評価方法

令和2年3月に策定した「第2次相模原市図書館基本計画」(以下「計画」という。)に基づき、第6章に定める成果指標及び進行管理において、図書館による内部評価と図書館協議会による外部評価を実施するとしていることから、内部評価と外部評価を実施した。

評価方法の詳細については、図書館協議会で検討し、評価内容を定性的に記述することに加え、次のとおり段階評価を行うこととした。

### (1) 内部評価

#### ア 総合評価

イとウの点数の合計点によりA・B・C・Dの4段階で評価

#### イ 成果指標の達成項目による評価

成果指標10項目に対する令和9年度目標値への達成に向け、目標値から算出した各年度の評価基準値を設定し、達成項目数によりA・B・C・Dの4段階で評価

#### ウ 施策の取組状況による評価

計画の4つの基本目標に紐づく73の主な施策について、目標達成に向けて取組を実施した施策の数を基に基本目標単位で点数化し、その合計点によりA・B・Cの3段階で評価

### (2) 外部評価

内部評価及び各委員のご意見を踏まえ、図書館協議会においてA・B・C・Dの4段階で評価

## 3 評価書の構成

### ・ 本編

- (1) 相模原市図書館事業評価について(評価書 p.1-4)
- (2) 成果指標及び基本的な統計の実績値(評価書 p.5-9)
- (3) 各図書館による自己点検・評価(評価書 p.10-17)
- (4) 内部評価(評価書 p.18-29)
- (5) 外部評価(評価書 p.30)

### ・ 資料編

- (1) 計画「第6章 計画の推進に向けて」(評価書 p.32-33)
- (2) 利用者アンケート(評価書 p.34-58)
- (3) 各委員の意見(評価書 p.59-62)

## 4 評価結果

(1) 内部評価：B (55点【アとイの合計点】/100点 概ね目標どおりの成果が得られた)

ア 成果指標の達成項目：C (15点/60点 成果指標10項目中1項目達成)

- ・ 成果指標のうち、令和6年度の評価基準値を上回った項目は1項目(利用者の満足度)で、昨年度と同様であった。前年比では、10項目の成果指標のうち、図書館ホームページの一日平均アクセス数などの5項目で増加した。
- ・ 成果指標の状況として、前年比で増加したもののうち、一般向け講座・講演会等の参加者数は前年比164.2%と大幅増となり、各図書館において利用を促す新たな取組を積極的に実施した成果が表れたといえる。

イ 施策の取組状況：A (40点/40点 4つの基本目標の合計点が12点満点中12点)

【令和6年度に実施した主な取組(一部を抜粋)】

・ 市立図書館開館50周年記念事業の実施

市立図書館では、開館50周年を記念し様々な事業を実施した。これまでにない新たなイベントや、近隣大学と連携した事業などを実施し、主な6事業では224人の参加があるなど、図書館利用のきっかけにつながる取組を推進するとともに、図書館の認知度の向上や図書館の機能について広くPRを行う機会となった。

・ (公財)相模原市民文化財団と連携した「朗読と音楽を楽しむつどい」の開催

相模大野図書館では、来館者の増加を図るため、地域の賑わい創出に寄与する事業の開催を検討していた(公財)相模原市民文化財団との共催により、グリーンホールの音響設備を活かし、経験豊富な俳優による近代文学作品の朗読と地域で活躍している音楽家によるピアノとマリリンバの演奏のコラボイベント「相模大野図書館×相模女子大学グリーンホール ～ちょっと欲ばりな午後～ 朗読と音楽を楽しむつどい」を開催した。

当日は、想定を超える280人以上が来場し、急遽立見席も用意したが、朗読、演奏ともたいへん好評であり、初の試みであったが、非常に満足度の高いイベントとなった。

・ さがみはら産業創造センター(SIC)との連携

橋本図書館では、令和6年度からSICと連携し、SICが選書したビジネスに関する書籍を継続的に寄贈いただくこととなり、従前から設けているビジネス支援の書架の近くに新たに寄贈いただいた資料をまとめて展示するコーナーを設置した。

今後についてもさらに連携を進め、ビジネスに関する講座の開催等も検討している。

(2) 外部評価：C (成果は得られたが、改善の余地がある)

(図書館協議会による総評【評価書p.30】の主な内容を抜粋)

- ・ 近年、利用者満足度は高いものの、他の成果指標の達成度合いが低調という状況が続いている。外部評価においても、図書館員の取り組みは評価しつつも、成果指標の達成の度合いから高い評価を与えられず苦慮する傾向が続いている。
- ・ 図書館員の努力は評価するが、同時に局地的といってよい、それぞれの場面での職員の努力では成果指標の達成は困難であるということも明らかになっている。図書館としての大きな目標を達成するためには、図書館行政、運営そのものについて大きな視点で改めて精査すべき局面に立たされているともいえるだろう。

- ・ 人口減少社会を迎えて、自治体は住民の「足による投票」（転出入による人口増減）という試練を受け続けている。図書館がその一翼を担う教育・文化の充実が住民の転出を押しとどめる重要な施策である。周辺自治体が図書館についてさまざまな取り組みを行っている以上、相模原市として現場にいる図書館員の努力だけではなく、改めて包括的な経営計画を構築すべき状況に至っていると考える。具体的には、相模原市として図書館行政の目標の設定、その目標の達成に必要な十分なリソースの投入、さらに目標の達成に至る経営計画の策定が求められる。

## 5 今後の取組

図書館協議会による外部評価の結果を踏まえ、計画で定めた目標の達成に向けて、次のとおり図書館利用活性化の取組を推進する。

### 【主な取組】

- ・ 成果指標の改善に向けた重点的な取組の実施  
成果指標の改善に向けて、達成度合いが低い項目を中心に、重点的な取組を検討し実施する。
- ・ 蔵書の充実及び利用促進  
図書館サービスの基盤となる蔵書の更なる充実や、蔵書の利活用促進に向けた取組の充実を図る。
- ・ 中央図書館機能の確立・充実  
本市図書館全体を統括し専門的業務を担う中央図書館機能について、中央図書館機能基本方針に基づき、人材育成方針の策定などの機能の確立・充実に向けた取組を推進する。
- ・ 市立図書館の再整備の推進  
「淵野辺南口周辺まちづくり事業」と連携し、施設に関わる機能や各種サービスの検討などの再整備に向けた取組を推進する。
- ・ 読書活動推進事業（電子書籍、くるくるとしよかん）の推進  
これまでの取組状況を踏まえ、コンテンツの更新及び見直しなどの更なる充実に向けた取組を推進する。
- ・ 図書館DXの推進  
図書館システムの刷新やICタグ・機器の導入など、ICTの活用によるサービスの利便性向上と業務の効率化に向けた検討を進める。
- ・ 多様な主体との連携による事業展開  
多様な主体と連携した事業展開や、ライフステージに応じた連続性のある取組により、市民の図書館利用の活性化を推進する。

## 6 その他

評価内容の詳細及び関係資料については、評価書のとおり。